

令和3年度「学校評価」について

今年度の長岡中学校学校経営方針の「重点目標」である4項目にもとづいて取り組んだ内容について、教職員による自己評価を行いました。要約したものが下のとおりです。

学校経営の重点

- | | |
|--|-----|
| I 質の高い学力（基礎・基本の定着、思考力・表現力・判断力、学習意欲）を育てる。 | 2.6 |
| II 豊かな人間性と社会性を育てる。 | 2.7 |
| III 基本的生活習慣の確立と健康の管理・増進と体力の向上 | 2.6 |
| IV 保護者・地域から信頼を得る学校づくり | 2.8 |

（※4:十分達成できている 3:ほぼ達成できている 2:達成できているとはいえない 1:ほとんど達成できていない の4段階で自己評価）

I 質の高い学力（基礎・基本の定着、思考力・表現力・判断力、学習意欲）を育てる。

- すべての教科でタブレットをはじめとする ICT 機器を積極的に活用した「わかる」授業の実践を進めたり iPad を積極的に活用し、個々にアドバイスやフィードバックを行うことができた。また、ICT 機器の活用により、わからないことを自分で調べる習慣がついてきた。
- 毎時間の「めあて（ねらい・目標）」を示したり、「振り返り」をさせたりすることで生徒が主体的に学べる授業の構築に取り組んだ。
- 高齢者疑似体験など地域社会との共生やキャリア教育の視点を持ち、授業実践を行った。職場体験は実施できなかったが、さまざまな職業についている人から、職業について学ぶ機会を作ることができた。

II 豊かな人間性と社会性を育てる。

- 同和問題、障がい者問題、LGBTQ、コロナウイルス、インターネットに至るまで、多くの人権問題について教職員で交流しながら認識を深めることができた。
- 人権学習の実施に当たっては事前の打ち合わせを各学年で綿密に行い、学年の実態に合わせた形で行うなど指導方法の工夫改善に努めた。今年度の懇談会は、コロナ禍の影響を受け実施することができなかったが、引き続き保護者の方々の率直な思いに触れる機会を持ちたいと考えている。
- 生徒会活動が活発化し、それに応える生徒が増加した。コロナ禍で制限がかかる中でも、できる形でコンタクトレンズケースの回収など新しい取組もできた。生徒会選挙においても、11名の生徒が立候補することで、真剣かつ活発な選挙活動となった。
- 教育相談部が中心となり学年・学級と連携して、個々の生徒の状況把握や情報共有を行い、よりよい人間関係の構築に努めている。また、スクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザーや別室で対応する心の居場所サポーターと連携し、子どもたちが安心できる居場所づくりとよりよい人間関係を育む絆づくりを進めた。

III 基本的生活習慣の確立と健康の管理・増進と体力の向上

- ホームルームではスケジュール手帳に宿題や連絡事項をメモするよう促しており、多くの生徒は見通しを持って生活する習慣を確立することができた。中には、目標や振り返りを記入するなど手帳を有効に活用し、学習や部活動への意欲を高めている生徒もいた。
- ウイルスの感染拡大防止のため、マスク着用や消毒等、徹底した保健指導を実施することができた。また、薬物乱用防止教室を実施し、生徒に考える機会を作ることができた。
- 部活動指導では、「長岡中学校部活動方針」に沿って活動することができ、コロナ禍でも生徒と相談しながらできる限りの活動ができた。大会等も中止や延期になる中ではあったが、「仲間づくり」の観点を大切にして、体力の向上や健康の増進について大きな役割を果たしている。

IV 保護者・地域から信頼を得る学校づくり

- 授業、人権教育、道徳、部活動、学校行事等の参観についてはコロナ禍の影響を受け実施できなかったり、制約がかかったりしたが、開かれた学校づくりを意識して可能な限り行った。
- 学校・学年・学級だよりやホームページの更新、保健室だより、進路通信、図書館だよりの発行を通して積極的な情報発信を行った。Webを活用した情報発信などは大きく進めることができた。
- 保護者から募った図書ボランティアや地域から募った学習支援ボランティアは、地域の方とともに協力して子どもを育む取組として定着している。

